

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	津市行財政改革推進委員会 第1回会議
2. 開催日時	平成19年6月29日(金) 午前10時から正午まで
3. 開催場所	津市役所本庁舎4階庁議室
4. 出席した者の氏名	(津市行財政改革推進委員会委員) 中山委員長、井ノ口委員、宇野委員、鈴木委員、千原委員、中井委員 (事務局) 渡邊副市長、藤原副市長、宮武市長公室長、鈴木財務部長、 渡瀬市長公室次長、竹仲行政経営担当参事、石川行政経営課長、 市川財政課長、溝田調整担当主幹、臼井主査、吉田主事
5. 内容	1 津市行財政改革大綱及び津市行財政改革前期実施計画について (1) 策定経過 (2) 津市行財政改革大綱及び津市行財政改革前期実施計画の概要 2 平成19年度における主な行財政改革項目の取組状況について (1) 前期実施計画の進行管理 (2) 歳入確保に向けた取組の推進 3 今後の進め方 4 その他
6. 公開又は非公開	公開
7. 傍聴者の数	0人
8. 担当	市長公室行政経営課行政経営担当 電話番号 059-229-3273 E-mail 229-3273@city.tsu.lg.jp

・ 議事の内容 下記のとおり

行政経営課長 津市行財政改革推進委員会第1回会議の開催を述べる。

中山委員長 会議の開催の前に挨拶を述べる。
本日、赤塚委員、中村委員、二神委員、山口委員の会議の欠席を報告する。

渡邊副市長 昨年は私どもが進めている行財政改革に係るご提言をいただき、大綱並びに前期実施計画を策定した。本当にありがとうございました。4月

以降それぞれの計画を実現するために、各部局が検討、実施を進めていく。また、本年度も行財政改革についてご意見を賜りながら、より良い行財政改革に努めていくのでよろしく申し上げます。本日はありがとうございます。

行政経営課長 人事異動に伴う、市の体制の変更について報告する。

中山委員長 本日の会議に関する議事録への署名について、名簿順で井ノ口委員、宇野委員にお願いする。

今年度の、当委員会の役割について、行財政改革の取組項目の実現に向けての意見を求められている。

津市行財政改革大綱及び津市行財政改革前期実施計画の策定について、事務局より説明させる。本年度は、これから市が両計画に位置づけた取組項目等を実現しようとしていくにあたり、民間の視点からの意見を期待することのこと。

会議の事項に入る。

まずは、事項「1 津市行財政改革大綱及び津市行財政改革前期実施計画について」から、「(1)策定経過」と「(2)津市行財政改革大綱及び津市行財政改革前期実施計画の概要」について、事務局に説明を求める。

行政経営課長 本日の資料に基づき策定経過及び両計画の概要等について説明する。

中山委員長 ここまでで、質問、意見等は。

特に無いようなので、次に事項「2 平成19年度における主な行財政改革項目の取組について」から、「(1)前期実施計画の進行管理」と「(2)歳入確保に向けた取組の推進」について、事務局に説明を求める。

行政経営課長 資料に基づき、前期実施計画の進行管理及び歳入確保に向けた取組の推進について説明する。

中山委員長 事項2まで終わりましたが、ご質問ご意見は。

千原委員 最後に御説明のありました、広告について、たまたま私の方に市役所から4件ほど電話をもらったり依頼を受けたりしている。このような依頼は、各部署で行われているのか。窓口がそれぞれ違うのか。

- 行政経営課長 現在はそれぞれの部署からお願いするようになっている。
- 市長公室長 先般、幹部会議で、副市長からも提案があり、財政課と、広告の取り方について工夫をしていこうと考えている。各部署がバラバラに依頼に行くのではなく、広告媒体によってメニューをいくつか取りそろえて、という方向で考えている。
- 市長公室次長 効率等を考えて、各部署がそれぞれ依頼に行くのではなく、各メニューをいくつかとりそろえてから、各企業の方へお願いに行くという形に改善していくよう考えている。
- 千原委員 こちらも、予算のこともあるので、できれば、まとめてお話をもってきたもらったほうが、対応もしやすい。
- 中山委員長 歳入確保について、公共料金の未納者に対する回収費について提案される機会はあるか。
- 行政経営課長 現在の対応としては、施設の使用料等の細かいものに関しては、個々の対応としており、税や国民健康保険料等の全体に関わる大きなものについては、調整会議を設置し市全体として取組を進めているところである。
状況については、まとめ次第、また報告していきたいと思う。
- 中山委員長 報道もされているが、公平性の面と歳入増加の面の両方を考慮しながら促進していったほしい。
- 鈴木委員 民間企業の場合、赤字になったとき、営業目標が定まってくる。また、不良債権問題が大きくクローズアップされたとき、竹仲大臣が景気を回復させるために、不良債権処理をいつまでにこれだけやりなさいという、分かりやすい大きな目玉商品として取り組んだ。市の内部でやらなければならないことは、たくさんあると思うが、最終的な目標は市民が安心できるのは何かということであると思う。
経常収支比率をどこまで改善するのか、あるいは、起債の残高をどこまで減少させるのか等いろいろあると思うが、一番大事なものは、市民の安心になるのではないかと思う。新聞やテレビで騒がれている夕張を考えてみたとき、必ず市民の声は、そういうことを期待している。やらな

ければならないことは、いろいろあると思うが、実際は大きな目標をどこまで改善するのか見えてこないと思えないと思う。目標を明確に掲げた中に、結果的に何ができてくるのか、平成21年になった時に、何をやったか分からない、また、市民の不安が解消できないのではないかという感じがしてならない。もっと明確に、はっきりした目標を出すべき。

もう一点感じたのは、危機感、問題意識がわかりにくい。市の財政状況の問題点を把握しきれていないことで、漠然とした質問が出てくると思う。問題をもっとはっきりと示さなければ、市民が分からないまま過ぎていくような気がする。市民にこんな問題がたくさんあるということをもっと明確に示したら質問の内容ももっと次元の高いものになったのではないか。見ていると、ちまちました話が多すぎて、一体何が出来上がるのか、どういう問題意識を持っているのかが見えてこない。計画の初期の段階からやるべきことを明確に示した上で、第2段階、第3段階と進めていくべきだと思う。

中山委員長

おっしゃるとおりだと思う。経常収支比率という言葉がでたが、これが一般市民に理解してもらえるかというとなかなかできない。方向としては、専門家が分かるような内容のものをこの行革の委員会で分かりやすいキーワードにして表にだしていく。

鈴木委員

計画を実行するのに各部各セクションが積み上げで問題意識を持った上で取り組んでいくことになると思う。結果的にこれさえやっていけばどれだけ改善するかということよりは、むしろ枠配分方式のような取り組み方で、まず大目標があってそれを達成させるために各セクションが取り組みを行うというような、各セクションが何を目標でどこまで改善できるのかということが見えてこない。

訂正目標が市民に簡素で効率化で多少のことを我慢しなければならないが、それほどもダウンしないということがあると思う。そういう問題をはっきり出すべきである。それから、行財政改革の中で蓋をしないで、職員の給与など中身を出し切って健全さを訂正目標の中に入れるべきだと思う。

それから、新聞等でいろいろ追求されたりして、市民から行財政改革って一体何をやっているのかという市民感情は極めて良くない。行財政改革の中身はどうやっているのかという不安感、不信感はぬぐいきれない。市民が安心できる明確な目標を示し、いろんなことを真剣に取り組んでやりきるということをもっと出していかないといけないと思う。

中山委員長　　今、下からの積み上げという話があったが、委員会の中でそういう目玉を運営してもいいのではないか。

鈴木委員　　そうしないと結果が出ないと思う。何年たっても嫌なことを蓋したまま。手柄論であって、私たちはここまでやったというが、なんでもない安易なことをやって効果がでていないとなってもだめだと思う。

はっきりしたここまでのものを完成するために、各部がどう取り組むかというのがあるべき。このままいくと、一体どこまでどうなるのかが分からない。専門家が見ないと分からないし、分かったところで効果が見えてこないと思う。

中山委員長　　鈴木さん、資料2 - 3の行財政改革前期実施計画 財政的効果に係る推進項目別集計表についてはどう思うか。

鈴木委員　　もっと大きな目標がなければいけないのではないか。小さな目標掲げてあまり効果ないのではないかと思う。

市長公室長　　今日は、行革の報告が中心だった。この一年を進めるにあたって、昨年と今年を見ますと、昨年は確かに積み上げだった。まず、考え方の大綱をつくり、3年間で55億、平成19年度で約13億であって、まず、この55億の確実な実施を前提として、2年目の構築をどうするのかというのが所管としても大きなテーマとなっている。

行革の大きな目的というのは財政構造の健全化が大前提となっており、そこで生み出したお金を新市のまちづくりへどう活かしていくか、その元となる環境をつくっていく、そこにつきと思う。併せて、行革と総合計画が進んでいるが、そこで投資の数、経常収支を80%後半にもっていくという形がまず一年目だった。今後は、平成18年度の決算統計を踏まえて、前期実施計画にある、財政計画の策定を行っていく。今やろうとしている55億云々がこの財政の健全化から見て足りるのか足りないのか、足りなければ、抜本的な構築が2年目の策だと思う。したがって、1年目のこの積み上げたひとつのこれをベースに、3年から5年で健全化することをはっきり示し、2年目の構築を進めていこうと考えている。

後で時間があれば、行政経営の考え方、一定の枠での事業形成、人も減ってくる中での職員の在り方、ということ踏まえた経営の仕組みも併せて今回議論いただきたい。次回あたり、決算統計の状況を踏まえて健全化

をつくるひとつの計画、それに基づく行政経営の仕組み、それに基づいて個々の項目に取り組むということになると思う。最後に、新聞等で心配をおかけしたが、職員の給与のことについても報告を出し、返還という形をとった。一言付け加えると、旧津市の投資額は100億程度だったが、今年度の投資額はだいたい100億をきっている。それに対して扶助費は旧津市で約100億だったが、合併をして今年度は260億となっている。扶助費というのは福祉の面で必要ではあるものの、財政構造を考えると、少し片寄りすぎていないかという点もある。こういう財政構造の比率というのでも検討していきたいと思う。

また、合併協議でいろんな調整をしてきたが、いろんな批判を受けている。水道料金についても、合併時に約束した料金でそのまま赤字をどんどん増やしていったのかという思いも正直いってある、これは、合併時がどうこうというのではなく、新市のなかでもう一度取り出して料金の在り方というのをご議論させていただきたい。したがって、これから整理をすると、財政の構造から見た在り方、合併協議で調整したもののもう一度点検が必要かどうか、というものをお出しして検討していただきたいと思う。

財務部長

先程鈴木委員のお話にあったように、経常的な目標を設定するといえるお話の中で経常収支比率が90.6%というのがあったが、これは平成17年度の経常収支比率であり、現在まだ18年度の決算統計を作成中で、新しい数値ができていないが、経常収支比率というのは現在予算上でいかに財政に弾力性があるかということを示す指標であり、これが高いほど財政に弾力性がなく、通常、都市部においては75%~85%程度が好ましい数値といわれている。そう考えると、平成19年度の財政運営は非常に厳しい部分がある。私どもは健全化にむけた財政構造の指標を作成する中で、やはり財政不足を財政調整基金に頼ることなく、歳入歳出の均衡のとれた財政構造にしていくべきである。今後10年間の経常収支比率の目標値を策定することを考えており、まだ平成18年度はまだ数値がでていないが、可能性としては95%近くになると思われ、これを10年間で85%程度まで縮小していこうと考えている。行財政改革前期実施計画の中で、3年間で55億というのが挙がっているが、これを達成する中で、85%にできるかぎり近づけていきたい。もちろん経済状況の変化等があり、市場も変わってくるとは思うが、努力していきたい。

それから、鈴木委員のお話の中に枠配分予算というのがあったが、これはいわゆる平成18年度までの予算編成方法については、積み上げ方式と

いうやり方でやっていた。平成19年度からは行政経営的な観点、事業の優先順位や事務効率といった観点から枠配分という形の予算編成を行っている。これは、人件費、扶助費、政策的経費を除いたその他の経費、これは、全体の約40%であるが、枠にして配分し、その中の内容を把握して削減を行っている。平成18年から19年にかけて、枠配分を行った結果、約5.5%の削減、金額にすると、18億7千万円の削減結果が得られている。今後も枠配分について検証しながら、検討していきたいと思う。

鈴木委員

私の言った枠配分は、予算の枠配分ではなく、目標を貫徹するときに、責任額をもってもらうために配分するもので、例えば、収益確保するのはどのセクションがどれだけでもつのかというような、目標設定が各セクションであるべきではないかと思う。ただ漠然とした標語みたいな目標の設定ではいけない。責任額をもって把握していかないと出来上がっていかないのではないかと思う。そういう意味で枠配分ということを申し上げた。というのは、津の人口がこれから減っていく中で、美杉、美里、安濃、芸濃等みな高齢化していき、そこへの負担が増えていき、景気回復は遅れ、税収入が減っていく。朝日町、川越町、亀山市などは大企業の誘致で、今後も安心して住み良いという議論が茶の間で話題になってきている時代であるから、合併によって人口が減って経費がどんどんかさみ、入るものが入ってこなくて、アバウトな目標を設定していたら、27年になったときに、何がどう変わっているのか、このままでは達成できないのではないかと思う。形のあるものができないのではないかと思う。

井ノ口委員

19年度の委員会の開催が5回程度と説明がありましたが、今後、推進委員会がどういう成果を出していくかと考えると、限られた時間の中で、市民のみなさんに行革のメッセージを出していくときにもっと分かりやすい方法が必要ではないかと考える。

1つは、10の自治体が合併したのであるから、合併した結果、水道料金も一例だと思うが、公平でないところがたくさんあると思われる。合併時の約束にとられるのではなく、そのようなところを是正していく。

2つ目は、この機会に、久居市の給与の事例のような膿のようなものを出していく。

3つ目は、新しい津市がどのようになっていくか、これから総合計画を出していく中で、行財政改革をやる場合とやらない場合では、総合計画の姿が変わってくることを分かりやすくメッセージとして出してはどうかと

思う。そうでないと例えば、三役の方や職員の方の給与を何%削減していても市民には努力が伝わらない、また分からないと思う。

新しい津市を目指すには行革が必要なので、だから三役の方や職員の方もがんばっている。だから市民のみなさんにも「水道料金を上げる」とかの理解を求めますというメッセージが必要であると思う。

総合計画の姿とこの行財政改革は完全にリンクしている。例えば、55億円削減すると言われても分からない。55億円削減したら津市はこのような姿になる。削減しなかったらこのように姿になると示していったらどうかと思う。

そのためには、これから19年度5回の委員会の中で、総合計画がこのぐらいの時期にでき、そのような姿にするにはこのような行革努力が必要であると示し、だからこのような行革の作業の積み上げにより、これらを検証していく。

19年度以降、当委員会は終わるのであるが、その後の進行管理のやり方をどのようにするのか、行政経営を行うのであれば、行政経営の仕組みややり方を示してもらい、進行管理を毎年市民への公表していただく。

デッサン的な分かりやすいものでいいので示していただきたい。

中山委員長 資料2 - 1P18の「行財政改革の推進体制」と委員との意見と関連することはありますか。

行政経営課長 推進体制の中に、大きな会議が2つ、庁内の部長級で構成されている行財政改革推進本部とこの行財政改革推進委員会である。

先程の総合計画の関係であります。総合計画の推進の中にも、行財政改革の推進に関する研究部会もありますので、これから計画等を進めていく中で、資料についても当委員会へ示していきたいと考えている。

また行財政改革の進行管理については、行財政改革推進委員会に報告していき、市民への公表も行っていきます。

宇野委員 松田市長も元気な津市をアピールしているが、行財政改革においても市民に理解してもらうためにどのようにアピールしていくかが問題であると思う。

官公庁ですので民間の手法を全て取り入れることは難しいと思うが、民間の場合ですと、この部分は赤字ですのでこの部分は切るとなったりする。

官公庁はそのような事が、市民との関係もあるので、なかなか難しい面があると思うが、収入と支出との実態をきっちり市民にアピールするのは

必要であると思う。

一例ですが、芸濃町の温泉部分の閉鎖について、仮に閉鎖すればこの部分の赤が無くなる。また、利用価値が無くなった施設を壊す場合、壊す理由、壊した後の活用、壊した後の将来にわたっての経費の差など、市民へのアピールを大胆にしていく必要があると思う。

中井委員

壊す事に対しても費用が掛かるので、何か他に利用することについて考えてもらうことは大事であると思う。

「市民が安心できるまちは」というと津の市民のみなさんは、危機感があまりなく、人ごとという感じが見受けられるので、もっと分かりやすく、津市の現状をアピールしていくことが大事であると思う。

津のまちの印象を子どもに尋ねるとあまり反応がない。これからお年寄りが増え人口が減っていく状況の中、若い人の流出に歯止めをかけ、外部から人が来るような活気のあるまちにするためには、壊さなければならぬ施設の違った利用を考えることも必要であると思う。

分かりやすいアピールを分かりやすく詳細なところまでしていただくこともお願いした。

また、大人だけではなく子どもの頃から、津のまちを活性化していくにはどのようにするかという事などを教育の面でも話し合えるようなことができたなら良いのではないかと思う。

宇野委員

三重タイムズに載っていた施設の利用状況であるが、利用がない施設をそのまま置いておくことは、ある意味行政の無駄になるので、そこは市の方で施設についてどうするか判断をしていただき、対応を考えてもらわないといけないと思う。

人口が増えていくこともこれからは、なかなか難しいと思われるので、そのようなところも含めて対応を考えていただきたい。

中井委員

施設を利用したい人はたくさんいると思う。しかしどうしていいのかわからないということもある。

外からの人を招くアピールをすることも必要であると思う。

芸濃温泉のアピールをもっとすれば、何かできると考えている人はいるのではないかと思う。

市長公室長

芸濃温泉については誤解がある。多くは福祉施設であり、一部温泉の施設があり、その部分を休止し、その間、代換えについても考えていくと

いう状況である。

この場は行革の会議であるが、総合計画は現在構想の段階であり、今後明確になり次第、示していきたいと考えている。

人口フレームで、人口は6000人程減ってきます。総合計画の中では、100万人の消費をもってくれば、人口が減った分の消費があると試算されている。

鈴木委員

大学の見直しにおいて、三重大学の状況も分からなくなっている。今の問題でないが、市の財政などいろいろなことに影響があると考えられる。

また市の状況を一般家庭に例えると、2000万円程度の借金があり、預金が底をつき、どら息子を抱え、働き手がなく、収入が減ってきて経費がどんどん掛かってくるようなものであると思われる。

若い人が増え、市が活性化できる状況がないと非常に厳しい。市の状況が市民に正確に理解されるようしていただきたい。

公表によって市民のみなさんが問題意識をもっていただくことも大事である。

井ノ口委員

総合計画をここで示していただくことを目的としているのではない。全体として行革と、どのようにリンクしているのかをしっかりと説明していただかないと私たち委員も分からないですし、市民のみなさんも分からないと思う。

何のためにこの行革を行っているのか、10の市町村が合併して新しいまちを作るために行っているのか、その姿にいくためには、行革の努力が必要であると示す必要があり、そうでないと分からない。

鈴木委員

10年先の人口、収入は、経費はどうなっていくかなど、シミュレーション的なものが必要であると思う。現状はこれくらい困っていて、このままだと10年先はこのようになるなど、行財政に関して問題意識を市民に持っていただくことは必要であると思う。

市民の協力がないと行革は機能しないと思うので、市民の協力は不可欠と考える。

中山委員長

たくさん御意見を出していただいたが、同じようなところに集中したように思われる。当委員会の思いは行革の本部に伝わったと思う。

今後、これらのことを踏まえ行革の推進に努めていきたいと思う。

委員になってから、最近よく広報紙、ホームページ、ケーブルテレビを見るようになりましたが、特にホームページは全体的に固い感じがする。見たい人に分かりやすいものをお願いしたい。

事項3の今後の進め方と事項4のその他について事務局に説明を求める。

行政経営課長 事項書の3「今後の進め方」について、諮問にある「計画に位置付けた取組項目等の実現に向けた意見」をお願いしていく。それから、新しいシステムの在り方などについても今後、議論をお願いする。

また、行財政改革項目の主なものについて進捗状況を御報告申し上げ、その実現に向けた御意見ををお願いしていきたいと考えている。

中山委員長 今日欠席の委員においては、会議の議事録を添えて資料を送付したいと思う。また、今回の資料について意見等がありましたら次回までによろしくお願いしたいと思う。

藤原副市長 本日は、お忙しい中お集まりいただき、また、長時間にわたりどうもありがとうございました。

年度末に答申を頂き、それを基にこちらの方で大綱、実施計画を策定しました。その中で、前期実施計画に対して委員のみなさんには、不完全という印象を持たれたような感じを受ける。

民間の経営改善計画とすれば、収入の見通し、経費の額など、きっちりと数字での目標を示した中で、どのように改善していくのかビジネスモデルを展開していくのか展望を示すのが当然である。

しかしながら、今回は合併直後ということもあり、決算の数字もまだ出ていない状況であり、また財政的な方向を示す数字も出ていない状況であり、合併前の約束事のある中で、そこからの変換も難しい状況である。このような中、各部局において業務の改善についてできるところからのリストアップ的なものとなっていると思われるが、決算の数字が出てきた後、市の具体的な目標をどこへ持って行くか定める中で、これらの行革の話を結びつけて、その目標に向けて実施していくことに計画に肉付けを行っていくことが必要になると思う。

また危機感が足りないという話について、市は危機感を出す場合には、今後のビジョンを出さなければいけない。そういうことで行財政改革と総合計画というものを出しているということで、今後も進めていきたいと考えている。

いろいろ課題がたくさんございまして、今年度においても委員の皆様

置かれては、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

中山委員長 本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。会議を終了する。

- 終了 正午 -